

大阪護國神社御造営工事

自昭和十四年二月 二十日
至同 年十月三十一日 動勢

地鎮祭 昭和十四年二月二十日

準備工事	除青樹木 移轉假植	自二月二十一日 至二月三十日	完了	五〇〇人	農學校及園 藝學校生徒
	作業用工 作物設置	自二月二十五日 至四月三十日	完了	三〇〇人	職工學校生 徒
	障害工作 物移轉	自二月二十一日 至九月二十八日	完了	直營及請負	温室休憩室 其他工作物

七、同年四月の護國神社制度の施行に伴い大阪招魂社奉賛会を大阪護國神社奉賛会に変更

八、同年四月三十日に創建願書を内務大臣あてに提出

九、同年六月六日、内務大臣より許可、翌七日、その旨が内務省神社局から発表された。

十、昭和十五年三月末、仮社殿竣工

十一、同年四月二十二日、内務大臣に対して護國神社指定申請

十二、同年同月三十日付で大阪護國神社、内務大臣の指定を受ける

十三、同年五月四日の鎮座祭、五日の第一回例祭を行う

一方、住之江公園の動きは次のとおりです。

一、昭和十四年一月二十六日の参事会で、住之江公園の北西と南西角地にある民有地を公園用地として買収することに可決確定

二、同年六月一日に住之江公園の南側(温室と花壇)が供用廃止

三、昭和十五年四月十六日の参事会で前年に買収した土地の一部(南西側)と供用廃止された住之江公園の南側を合わせ、一万坪を「神社境内地トシテ大阪護國神社ニ無償譲渡スルモノトス」として可決確定

以上のことから、大阪護國神社創建に合わせて住之江公園が改変されたことがわかります。また同時に、大阪護國神社創建のスケジュールが非常にタイトであることが読み取れます。タイトなスケジュールに収めるためには、大阪護國神社は府県社であることから、大阪府知事が神社創建の音頭を取り、大阪府の中心である大阪市内に存在する、大阪府営の住之江公園(住吉公園は対象にならなかったと思われる)に持つて来ざるを得なかったことがわかります。また、昭和十四年(一九三九)一月に大阪招魂社奉賛会が発足し、同年二月二十日に地鎮祭を執り行い、二十一日より作業を開始しています。この時点では住之江公園の一部廃止が行われておらず、さらに同年四月三十日に創建願書を内務大臣あてに提出し、同年六月六日、内務大

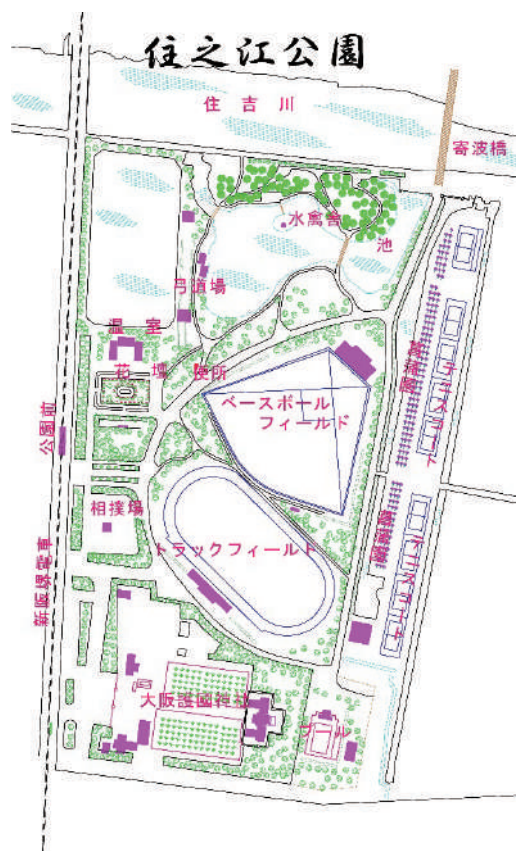


図8 昭和17年 住之江公園と大阪護國神社

臣より許可が下りる直前に公園の一部廃止が行われています。

また、招魂社指定標準では、社殿境内が府県社に相当する規模たることとされていますが、明治四十五年(一九一二)に出版された『府県郷社明治神社誌料』全3巻の府県社を見ると境内規模にはばらつきがあり、最も多くみられる規模は二〜三千坪になります。したがって大阪府が目指した一万坪というものは当時の府県社の規模を表しているのではなく国から示されたものと思われます。

住之江公園の改修

護國神社創建に伴い改修に迫られた住之江公園の計画は『公園緑地』(公園緑地協会 著者)に記載されています^{注6}。それによると、「公園は南側を神社の境内となるため、南入口を東方に移し、境内に接し幅員14.5メートルの園路を配し、西入口及これに接する樹林地を改造して在来の正面苑路二線を幅員20メートルの一线に変え、南の神社に近き部分に相撲場を設け弓場の西に接し温室花壇を移し、幹線園路の一部に大改造を行う整備計画

をしているが、将来護國神社の本殿を建築するに当たり、西北隅の境内の盛土を行うための土砂を公園北西部で掘削し確保する。この部分を埋戻し25メートルプールを移築する予定である。」となっている。

また、公園の整備は護國神社創建の準備工としてその内容が一部記載されており、二月末から九月末の樹木の移植に始まり、公園施設の移転が行われたことがわかります。ただ、相撲場、弓場や園路の改修がいつ行われたかは不明です。また、25メートルプールの移築は最後まで行われることはなく、池のまま放置されていました。図8は昭和十七年(一九四二)の航空写真を基に筆者が図化したものです。

(荒木美喜男)

注1. 参拝のための殿舎やしろ、祠
注2. 岩倉公実記P468
注3. 大阪護國神社史P67
注4. アジア歴史資料データベース「大阪偕行社使用地域内へ記念標建設の件」
注5. 大阪護國神社史P70、71、72、73、79、85、88、89、90
注6. 公園緑地第3巻12号P90
「大阪護國神社造営工事概要」

住吉公園一五〇年記念事業

歴史探訪

第18号



発行日:2024年3月1日(季刊:3月・6月・9月・12月発行)

明治6年に開設して150周年を迎えた大阪府営住吉公園の歴史探訪誌として、2018年12月から季刊で第16号まで発刊してまいりました。2023年7月刊の『住吉公園と住吉さん』編纂による一時休止後、2023年12月より再刊しました。ぜひとも住吉公園、大社界隈の悠久の歴史地理をご堪能ください。

住吉公園の原風景を
彩る生物たち
―水辺の植物―アシ・ヨシ―

大阪市の市章になっている潯標は芦原の中の水路を示す標示板が由緒となっています(写真①)。アシ(ヨシ・芦・蘆・葦・葭)は淀川水系を始め、大阪近辺の淡水の水辺に生育しています。(写真②)



写真①木津川の潯標 上田貞治郎 写真コレクション(大阪公立大学)「木津川口の目標として建設せられたるもの、俗に鯖の尾と称し大阪市の徽章に採用せられたれども、実物は現今廃滅したり。明治十年頃の撮影なり」



写真② アシ(ヨシ)の花、大和川河岸

元々、葦はアシが呼称の植物で古事記や日本書紀には、宇摩志阿斯訶備比(アスヒ)と記されています。

現在でも、淀川や琵琶湖のアシ原は葭簀の材料として有名ですが、元禄二年(一六八九)の寺田家文書の中に、「葭年貢」の記事があります。(写真③)

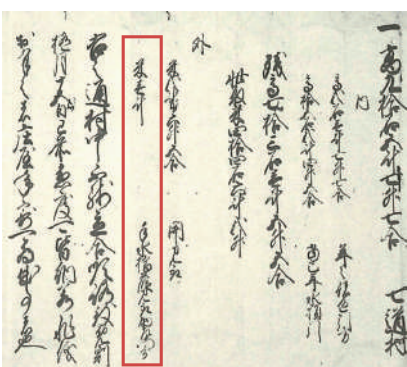
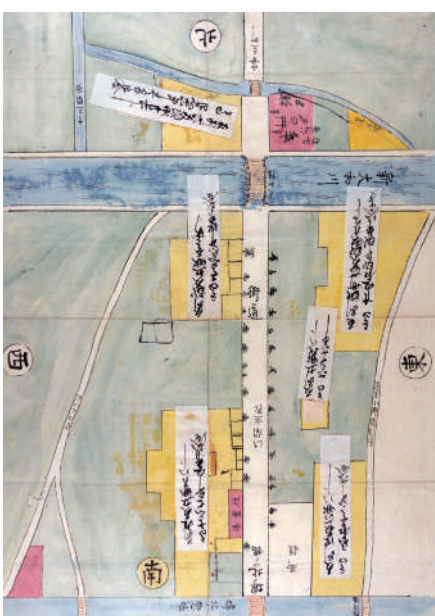
現在、アシは葭簀や楽器のリードに利用されているくらいですが、江戸期には、肥料や屋根材、除草剤、生薬、燃料等々大活躍していました。自然に生えてくる水生植物ですが、当時は年貢をかけられる貴重な植物でした。

近年は、水辺の生態系を守る意義が見直され、アシの保護運動も起こっています。今でも大和川の各所で見られるアシですが、現在の住吉公園にはな



図② 元禄国絵図に見る七道村、住吉大社、荻田村などの位置関係図(元禄国絵図 国立公文書館アーカイブより)

大和川開鑿以前の状況。安立町から七道村、堺町まで紀州街道が赤い太線で、その東側に細赤線で熊野街道が描かれている。



写真③ 元禄二年(1689)七道村年貢免定状(一部分)

囲み部分には「米壹斗 手水橋葭見取 助左衛門分」と書かれている。(寺田家文書)

図① 摂州住吉郡七道村々絵図

堺環濠北側から安立町までの絵図、松並木や新大和川、その先に手水川で北の村界となっている唯一設置された大和橋などが見られる。(寺田家文書)

編集委員：水内俊雄(代表、大阪公立大学)、小出英詞(住吉大社) 寺田孝重(刈田土地改良記念コミュニティ振興財団) 繁村誠人(NPO 法人 国際造園研究センター) 櫻田和也(NPO 法人 remo 記録と表現とメディアのための組織) 荒木美喜男(大阪府庁公園 OB)

発行：都市公園住吉公園指定管理共同体(株式会社美交工業・NPO 法人釜ヶ崎支援機構)

お問い合わせ：住吉公園管理事務所 電話 06-6671-2292





図5 明治35年頃 右側に明治記念碑、手前が豊国神社。上田貞治郎写真コレクション(大阪公立大学)



図4 昭和18年10月1日 大阪府公報

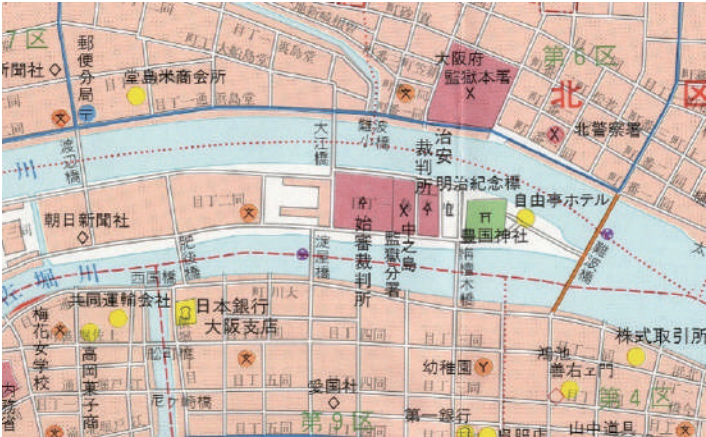


図6 明治18年頃 中之島の明治記念碑 新修大阪市史第10巻 歴史地図

大阪府内には大江神社隣接の国有地(43坪)に置かれた官祭招魂社(現在の大阪市天王寺区夕陽丘にある大江護國神社)が唯一あり

大阪府内には大江神社隣接の国有地(43坪)に置かれた官祭招魂社(現在の大阪市天王寺区夕陽丘にある大江護國神社)が唯一あり

大阪護國神社創建

招魂社と招魂祭

招魂社の始まりは明治元年(一八六八)五月、明治維新の殉難者の忠魂慰霊し、東山に祠宇(注1)を設け長く祭祀するとする太政官布告が出されたことによります。その太政官布告により京都東山に靈山招魂社が創建され、布告により地方縁故の殉難者を祀る藩主が各地に現れ、多くの招魂社が創建されました(注2)。

明治七年(一八七四)には、その時点で存在する招魂社に限り、以後、官費支給による維持経営を認め、これを官祭招魂社と称することに なりました。

大阪府内には大江神社隣接の国有地(43坪)に置かれた官祭招魂社(現在の大阪市天王寺区夕陽丘にある大江護國神社)が唯一あり

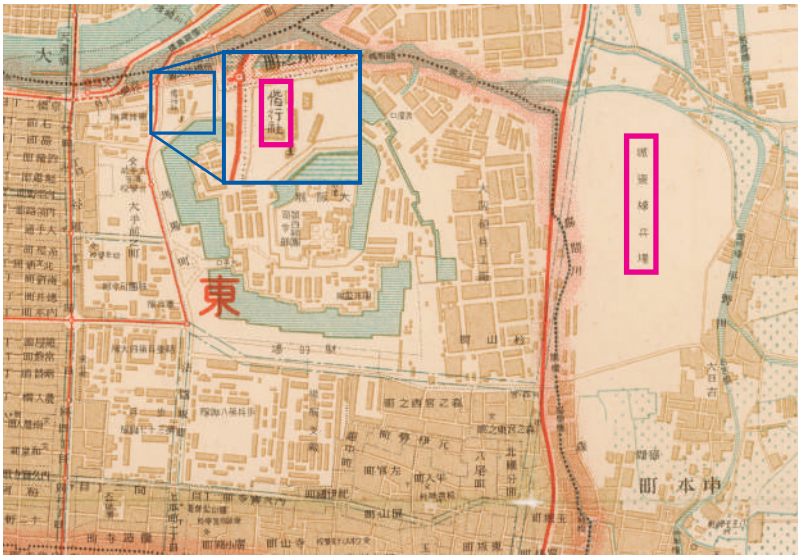


図7 大正14年(1925)大大阪明細地図 偕行社と城東練兵場

招魂祭は第四師団管区を対象とするもので、他府県にわたると同時に、祭祀施設も臨時仮設のもので、遺族や一般府民の日常的な祭祀から見れば不十分なものでした。城東練兵場の招魂祭は昭和十五年(一九四〇)に大阪護國神社が創建されるまで続けられることになり、招魂祭の場所が城東練兵場に替わったことにより、明治記念碑は同三十五年に大阪偕行社の敷地に移転されました(注3)(図7)。

大阪護國神社創建(注4)

大阪護國神社創建の経緯を住之江公園の変化と対比できるよう、年月ごとに護國神社の動きを箇条書きにまとめたものが次の通りです。

一、昭和十三年四月二十五日に池田大阪府知事

の参事会の議案書には「急施」という文字が入っています。急いで用地を買収し、用地の無償譲渡がなされたことがうかがわれます。なぜ大阪護國神社の創建を急ぐ必要があったのでしょうか。

その発端は昭和十三年(一九三八)の内務省による官祭招魂社制度の見直しにあります。同年九月に指定招魂社案を取りまとめ道府県に通知するとともに、該当する招魂社の有無の調査を求めました。

招魂社指定標準概要(注1)

指定招魂社は1道府県1社とする。

一、祭 神 道府県一円の縁故者を祭るものなること

二、社殿境内 府県社に相当する規模たること

三、基本財産 五千円以上

四、神 職 本務神職を設置する見込みのあるもの

五、崇敬区域 道府県一円の互るもの

六、神饌幣帛料の共進 道府県費より

その後、同年十二月十五日、神社制度調査会は護國神社要項(名称を変更)を可決し、内務省はこれに基づいて法令を改正し、昭和十四年(一九三九)四月に護國神社制度が施行され、この時点で道府県から回答のあった三十四社が護國神社に指定されました。この時の指定には大阪府は含まれていません。

大阪府は同十三年(一九三八)九月の内務大臣からの調査に対して、当府には官祭招魂社が一社存在するが該当しないこと、紹介の要件に該当する招魂社は目下創建準備中であり、近く申請する見込みである旨を回答しています。同年十二月二十二日、大阪招魂社造営大綱を決定、翌年の一月に大阪招魂社奉賛会発足し、体制がようやくできたところでした。

注1: 大阪護國神社史P67



写真④ 現在の手水川。右側が阪堺線に架かるもと手水川の橋梁で、川は今は暗渠化され道路になり、左写真に続く形になっている。

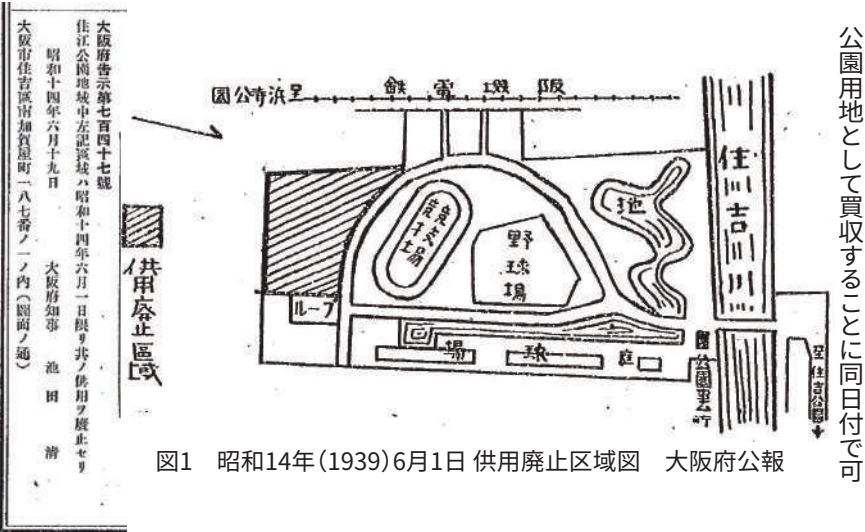


図1 昭和14年(1939)6月1日 供用廃止区域図 大阪府公報

このように住之江公園の一部が廃止され、護國神社に無償譲渡した経過を見てきましたが、昭和十四年(一九三九)一月二十六日及び翌年四月十六日

決確定します。(図2)

その後、住之江公園一部廃止の公報が出され、同十五年(一九四〇)四月十六日の参事会で「府参第六六号(急施)土地無償譲渡ノ件」の議案書が提出され、前年に買収した土地の一部(南西側)と供用廃止された住之江公園の南側を合わせ、一万坪を「神社境内地トシテ大阪護國神社ニ無償譲渡スルモノトス」とし、これも同日付で決確定しています。(図3)

つまり同十四年(一九三九)六月一日の公園の一部廃止は一万坪の護國神社用地(図3では招魂社敷地となっている)として譲渡するための前段であることがわかります。

しかし、この時に創建された大阪護國神社の区域は同十五年(一九四〇)四月十六日の参事会で示された区域の内、公園東側の入口を残すため、プールを含む東側は譲渡区域から除外されました。このため護國神社用地は一万坪に満たないことになり、同十八年(一九四三)十月一日に再び住之江公園の一部(南加賀屋町一八七番地の四の内、面積千九百九十四坪余り)を追加で供用廃止しています(図4)。この場所は図面が添付されていないため不明ですが、護國神社の現在の形態を見ると本殿の北西あたりと考えられます。つまり、新しく設置された相撲場の区域がプールに代わり、護國神社に編入されたと考えられます。

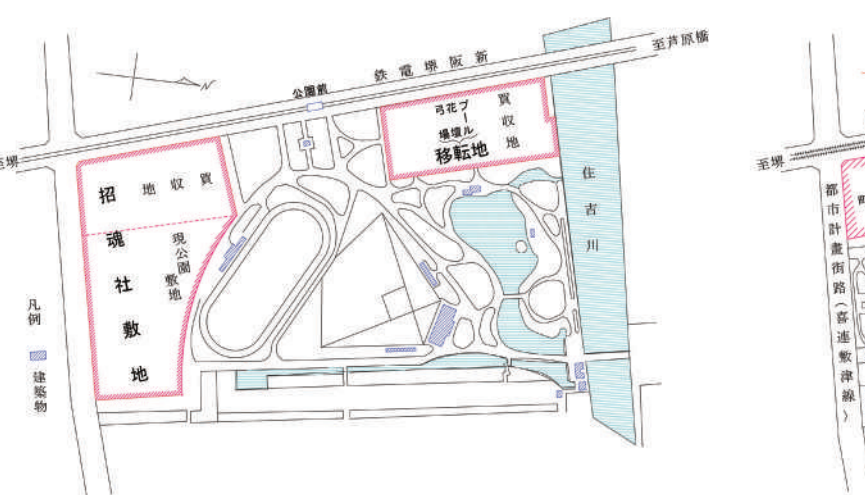


図3 昭和15年(1940)4月16日 無償譲渡区域図

いようです。

江戸初期から村が高槻藩との相給(領主が複数の村)となり、代々に渡り荻田村と庄屋役を兼帯していた当家にこの文書が残りました。

なお、前頁に掲載している元禄国絵図を見ますと、大和川開削以前の七道村が堺の町々に北接して見えます。住吉大社の南に細江川と手水川が、住吉社領の村々には村名の右肩に「住吉」と書き込まれています。寺田家が庄屋を務める荻田村は、依羅池の東側に描かれています。(図②)(寺田孝重)

注1: 小物成年貢とは、田畑以外に賦課された雑税の総称。江戸時代には土地の用益や産物が対象になりました。

住之江公園南側、削除される。

昭和十四年(一九三九)六月一日に住之江公園の南側(温室と花壇を含む)が供用廃止されました。図1は大阪府公報に掲載された図面です。(参事会に提出された議案書の図面ではプールを含めた東側境界まで廃止区域としている)。

ここでは、住之江公園の一部が廃止に至った経緯を大阪府参事会議案書及び公報で見えていくことにします。

廃止に先立つ昭和十四年(一九三九)一月二十六日の参事会に提出された「府参第一六号(急施) 土地買収ノ件」の議案書で、住之江公園の北西と南西角地にある民有地を公園用地として買収することに同日付で可決

決確定します。(図2)

その後、住之江公園一部廃止の公報が出され、同十五年(一九四〇)四月十六日の参事会で「府参第六六号(急施)土地無償譲渡ノ件」の議案書が提出され、前年に買収した土地の一部(南西側)と供用廃止された住之江公園の南側を合わせ、一万坪を「神社境内地トシテ大阪護國神社ニ無償譲渡スルモノトス」とし、これも同日付で決確定しています。(図3)

つまり同十四年(一九三九)六月一日の公園の一部廃止は一万坪の護國神社用地(図3では招魂社敷地となっている)として譲渡するための前段であることがわかります。

しかし、この時に創建された大阪護國神社の区域は同十五年(一九四〇)四月十六日の参事会で示された区域の内、公園東側の入口を残すため、プールを含む東側は譲渡区域から除外されました。このため護國神社用地は一万坪に満たないことになり、同十八年(一九四三)十月一日に再び住之江公園の一部(南加賀屋町一八七番地の四の内、面積千九百九十四坪余り)を追加で供用廃止しています(図4)。この場所は図面が添付されていないため不明ですが、護國神社の現在の形態を見ると本殿の北西あたりと考えられます。つまり、新しく設置された相撲場の区域がプールに代わり、護國神社に編入されたと考えられます。

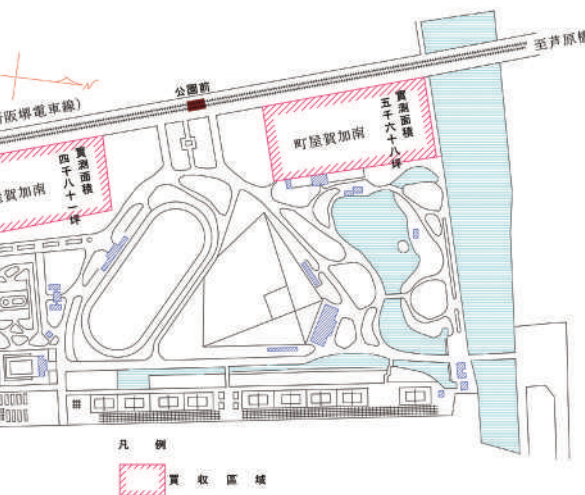


図2 昭和14年(1939)1月26日 公園買収区域